

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

広南中学校区 校番 2 呉市立広南小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>① 9年間を通して、確かな学力を育成する</p>	<p>① 子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善</p> <p>② 「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善</p>	<p>○予習を行い、課題意識を持たせるような授業づくりを行うことを目指して取り組んではいるが、学年によって回数や内容の指導にばらつきがあり、児童の肯定的な評価には結びつかなかった。教師の見取りとしての数値は上回ったものの、まだまだ不十分な児童も多く、書き方の指導や評価等を行いながら、継続的な取組が必要である</p> <p>○昨年度末、「主体的に、考え議論する」具体的な姿を発達段階ごとにまとめ、「はなしたいわシート」として作成した。今年度はこの「はなしたいわシート」を教師と児童で共有すること、このシートを他の教科の時間や朝のすきま時間でも活用することで、自分の考えを伝えることだけでなく、友達の考えを比べながら聞いたり、友達の考えを聞いて考えたりすることができるようになってきている。そのことが自己評価につながってきているのではないかと考える。</p> <p>○毎時間の適用問題の時間に教師作成の活用問題(類似問題)を取り入れたり、各単元の終末に活用問題の時間を設定したりすることで、応用的な問題に慣れ、解答できる児童が増えてきた。しかし、まだ十分とは言えず、適用問題以前に、基礎的な問題に課題がある児童、文意の把握に課題がある児童など、少ない。</p>	<p>○教職員間で共通理解を図り、統一した指導ができるようにする。予習ができる単元、不向きな単元を見極め、引き続き、児童の疑問から課題を設定し、児童同士の学び合い、教え合いによって解決することを目指す。また、適用問題や、活用問題に時間をたっぷり確保できるようにする。</p> <p>○発言の仕方が分からない児童や発言に苦手意識をもっている児童もいる。できている児童の話し方や聞き方を紹介し具体的なイメージをもたせたり、机間指導での声掛けや、ノート等使って励ましたり、時には表現させる場を設けチャレンジさせ自信をつけさせていきたい。</p> <p>○教科書の基礎的な問題だけではなく、応用的な問題に取り組む時間を確保する。ドリルタイムや広南タイムも活用して、学年や学校の課題領域に取り組み、様々な問題に慣れさせる。</p>
**	<p>① 礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する</p>	<p>基本的な生活習慣の定着</p> <p>体力の向上</p>	<p>○多くの児童が5つの合言葉を守って生活できているが、常に意識して行動できているかについては個人差がある。</p> <p>○どの学年も「早寝」に課題があり、就寝時間が遅いため、睡眠時間の短い児童が多い。</p> <p>○「メディアコントロール」に課題のある児童が多く、就寝時間にも影響していることが考えられる。</p> <p>○重点3種目の技能及び体力向上に向けて、昨年度内に全児童が再測定を行い、自分の目標値を決めたことにより、昨年度に比べて記録の向上がみられた。また、3種目の中では50m走に課題が出た学年が多かった。</p> <p>○ほとんどの種目でくれチャレンジマッチ5位以内を達成することができた。学校全体でくれチャレンジマッチの強化週間を設定し、体育科の授業だけではなく業間での長縄等の取組を行ったり体育朝会で各種目のコツを伝えたりするよって児童の記録向上への意欲も高まっている。</p>	<p>○教職員間で共通理解を図り、統一した指導ができるようにするとともに、毎月の生活目標との関連を図るようにする。</p> <p>○「早寝」や「メディア」に課題があることを知り、「寝ること」の重要性を、保健便りや委員会活動等を通じて継続的に啓発、指導するとともに、懇談会等で保護者にも周知する。</p> <p>○くれチャレンジマッチと連動させた業間運動の継続や技能習得のための体育科授業を各学年で展開していく。また、50m走については、瞬発的な動きを高める運動を体育の授業の中で行うようにする。</p> <p>○2学期以降もくれチャレンジマッチの強化週間を設定したり、業間運動を継続したりする。各学年の記録や順位を学校掲示することで、児童の意欲向上をさせる。</p>
*	<p>① 自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる</p>	<p>異学年交流や地域との交流活動を通して資質・能力の育成</p> <p>① 児童の「自分の命は自分で守る」力の育成</p>	<p>○学園運動会を通して、1年生から9年生まで交流を深めることができた。また、遠足や縦割り掃除でも他学年と関わりをもって活動することで学校の一員としての自覚をもつことができていた。各学年、教科の学習や総合的な学習等で地域の方と関わったり指導していただいたりすることで、地域に対する児童の感謝の気持ちが高まっている。</p> <p>○中学校や地域の方と連携した防災教育の実施や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。</p> <p>○「土砂災害携帯マニュアル」の作成を通して、保護者と一緒に避難場所や避難経路、警戒レベルについて確認することができた。また、引き渡し訓練を実施し、緊急時にどのように対応するかを保護者と確認することができた。</p>	<p>○学園朝会やロング昼休憩で異学年交流を設定し、交流の場を増やしていく。また、引き続き地域の方と連携し、各学年の実態に合わせて交流を図っていく。</p> <p>○避難訓練や学級指導等を通して、「自分の命は自分で守る」という思いを維持できるように、継続して指導する。避難訓練は、様々な場面を想定し、いつも同じような訓練にならないよう工夫していきたい。</p> <p>○継続的な指導と、家庭への情報発信を積極的にを行い、防災意識の向上を図る。児童の引き渡しについては、職員と保護者で共通理解を図り、緊急時には速やかに引き渡しできる体制を整えておく。</p>
業務改善	<p>① 働き方改革を推進する</p>	<p>① 長時間勤務の削減に向けた業務改善</p>	<p>○クラブ活動・委員会活動を6校時に行うこととした。成績処理の期間はすいすい日課にする等して、放課後の時間確保をした。長期休業中には、会議や研修を集中的に行うことで、まとめて休暇を取ることができるようにした。</p> <p>○在校等時間について、個人に対して、月半ばに半月分の状況を、月初めに前月の状況を知らせている。</p>	<p>○学年末や行事前等の多忙な時期は放課後の時間を確保すること、退校時刻を意識させる取組を継続する。</p> <p>○退校時刻の徹底、月半ばに時間外在校時間の残りの目安時間を必要に応じて個人に提示する。</p> <p>○ICTを効果的に活用する。配布物のペーパーレス化を図る。</p>